

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は 2025 年度日本陸上競技連盟競技規則、競技会における広告および展示物に関する規定、ならびに本大会の申し合わせ事項によって行う。

2. 開門時刻 4月19日 7時00分 4月20日 7時00分

3. 練習について

練習は下記の場所において、係員の指示に従って行うこと。

- (1) 補助競技場での練習は、トラック競技のみとする。
- (2) 投てき競技は、審判員の指示に従って競技場内で練習する。補助競技場では投てき器具を使つての練習は事故防止のため禁止する。
- (3) 補助競技場の人工芝での練習は許可するが、スパイクを着用しての立ち入りは厳禁とする。
- (4) 雨天練習場の使用は別途指示のとおりとする。

4. 招集について

- (1) 招集所は、100m スタート付近に設ける。

- (2) 招集開始および完了時刻は右記のとおり。

- (3) 選手は、当該種目の招集時刻が来たら、選手招集所に用意された出場選手一覧表に、第一回目のチェック(自分の番号を○で囲む)を招集完了時刻 5 分前までに行う。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック	競技開始 30 分前	競技開始 15 分前
跳 躍	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒 高 跳	競技開始 50 分前	競技開始 40 分前
投 て き	競技開始 50 分前	競技開始 40 分前

- (4) 第 1 回目のチェックを終えた選手は、招集完了時刻 5 分前に招集所の席で待機し、係員による最終点呼を受ける。その際競技役員にアスリートビブスの番号と、スパイク・シューズを見せ、競技服装の確認を受けた後、競技役員の誘導で競技場に入る。2 種目以上(例えばトラック競技とフィールド競技)を同時刻に兼ねて出場する選手はあらかじめその旨を本人または代理人が当該競技の招集完了時刻前に競技者係に申し出なければならない。
- (5) 招集完了時刻に遅れた選手は当該競技種目を棄権したものとみなして処理する。
- (6) 選手の棄権については、大会の権威と運営の円滑を期するため極力避けること。なお、参加の拒否(TR4.4)は本大会において適用しない。
- (7) 申込書類受付後の変更は認めない。

4. 競技場への入退場について

- (1) 競技役員の指示に従って整然と行う。
- (2) 競技を行う選手以外は、トラック・フィールドに立ち入ってはならない。注意に従わない場合は当該選手の競技を認めない場合がある。

5. 競技について

- (1) セパレートレーンを使用する競技においては、フィニッシュライン通過後、自分のレーン(曲走路)を走り他走者の妨害をしないこと。
- (2) 競技区域内への通信機器の持ち込みは一切禁止する。フィールド競技に限り、コーチ等からの録画再生機器を手渡しすることによる競技映像の確認は認められる。ただし、安全の観点上メインスタンドからの受け渡しは禁止する。
- (3) スパイクシューズのピンは 11 本以内とし、長さは 9 mm 以下とする。但し、走高跳とやり投は 12 mm 以下とする。なお、小学生の競技はスパイクシューズを使用してもよい。裸足は禁止する。
- (4) 靴底の厚さは最大 20 mm とする。(小学生は除く)
- (5) タイムレース決勝は、原則として記録の低い順に組を作成する。
- (6) 次のラウンドに出場するプラス・アルファについては、その競技終了後、記録・情報処理員が番組編成の上、直ちにアナウンサーを通して発表する。但し、同タイムの場合は 1000 分の 1 秒の実時間を考慮し判定する。レーンが不足するときは、決勝に出場する選手は抽選で決定する。
- (7) トラック競技の準決勝以後については主催者側で公平に組み合わせの上抽選し、走路順は競技場玄関前の番組編成掲示板に提示する。

- (8) トラック競技の予選における走路順、フィールド競技の試技順は、プログラムに記載のナンバーの左 1・2・3……の数字で示す。
- (9) セパレートレーンを使用する種目
 (ア)100m、200m、400m、100mH、110mH、400mH、4×100mR
 (イ)800mはオープン走路に入るまで。(スタート後 2 コーナーを走り終った地点)
 (ウ)4×400mR については第 2 走者の第 2 コーナーを走り終った地点まではセパレートレーンを走ること。
 (エ)小学生トラック種目については、すべてタイムレース決勝とする。小学女子 800mは参加者が 8 名を超える場合はオープンで行う。
- (10) 走幅跳の決勝は出場者多数の場合、試技を A・B 両ピットで同時に行う。
- (11) アスリートビブスを着用する時は、切ったり、曲げたり、また、いかなる方法でもかくしてはならない。
- (12) スターターの合図は英語とし、不正スタート 1 回で失格とする。(ただし小学生については従来通りとする。)
- (13) フィールド競技の試技時間は下表の時間を超えてはならない。

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技	2分	3分	2分

6. バーの上げ方について

走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。() は練習の高さ。

走高跳	男子 (1m60) - 1m65 - 1m70 - 1m75 - 1m80 - 1m85 - 1m90 以後 3cm ずつ上げる
	女子 (1m25) - 1m30 - 1m35 - 1m40 - 1m45 - 1m50 以後 3cm
	中学男子 (1m35) - 1m40 - 1m45 - 1m50 - 1m55 - 1m60 以後 3cm
	中学女子 (1m10) - 1m15 - 1m20 - 1m25 - 1m30 - 1m35 以後 3cm
	小学男子 (90cm) - 1m00 - 1m05 - 1m10 - 1m15 - 1m20 - 1m25 - 1m30 以後 3cm
棒高跳	小学女子 (90cm) - 1m00 - 1m05 - 1m10 - 1m15 - 1m20 - 1m25 以後 3cm
	男子 (3m00) - 3m20 - 3m40 - 3m60 - 3m80 以後 10cm、5m 以後 5cm ずつ上げる 中学男子(2m) - 2m20 - 2m40 - 2m60 - 2m80 以後 10cm ずつ上げる。

上記以上のバーの上げ方と、天候その他の特殊条件によって変更する場合のバーの上げ方は審判長が決める。

第 1 位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳は 2cm、棒高跳は 5cm とする。

7. 投てき用器具について

用器具は主催者の用意したものを使用すること。ただし、やりは競技開始 70 分前から 60 分前の 10 分間に第 1 ゲート付近の器具庫前(100m ゴール付近)において検査を受け合格したものに限り使用することができる。(投てき用器具は全競技者が使用できるものとする)

8. 表彰について

- (1) 表彰は決勝終了直後に実施する。多種目出場で表彰に出られない場合は必ず代理を出すこと。
- (2) 各種目 3 位までの入賞者に賞状とメダルを授与する。

9. 諸届出について

- (1) 抗議申立書は総務に提出すること(TR8)。抗議申立用紙は招集所に用意しておく。
- (2) リレーメンバー・オーダーは、各ラウンドの第 1 組目の招集完了時刻の 1 時間前までに、所定の用紙に記入の上競技者係に 2 部提出する。決勝においてもメンバーの変更の有無にかかわらず前記のとおり提出すること。用紙は招集所に用意しておく。

◇リレーチームの編成メンバーは、一度予選に出場した後でもそのメンバーを 2 名以内に限りほかの競技者と交代することが出来る。また、走者順を変えることもできる。ただし、交代する競技者は、あらかじめリレー種目、またはそれ以外の種目に申し込んでいる競技者に限る(TR24.10)。

10. その他

- (1) 発病、負傷に対しては応急処置以外の責任を負わない。医務室は本部席隣に置く。
- (2) 島根県登録選手については、第 79 回国民スポーツ大会一次予選を兼ねる。
- (3) 競技場内に、携帯電話等の通信機器を持ち込むことはできない。また、衣類・持ち込み物品については日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規定」に従うこと。
- (4) 更衣室は指定された場所を使用すること。貴重品の管理は各自で行うこと。紛失の責任を負わない。
- (5) 選手、監督共に競技人としてのマナーを自覚すること。